島根医学　第42巻　第2号　12〜18頁（2022）

【第134回生涯教育講座】

がん性痛のマネジメント
（在宅ケアのために）

中谷俊彦（なかたに　としひこ）

キーワード：がん性痛，オピオイド，医療用麻薬，鎮痛補助薬

はじめに

がんという病気は様々な苦痛症状を引き起こしますが，その中で頻度が高く，多くの方々がこれで苦しみたくないと願っている症状として「痛み」があります。このがんの痛みのマネジメントは，がん医療に関わる医療者が身につけることが求められているものであります。長引くコロナ禍の中，入院患者との面会制限をせざるを得ない状況において，大切な人たちと貴重な時間を過ごすために，在宅での生活を望まれる患者さん・ご家族は多くおられます。在宅ケアを可能にするための医療用麻薬の使い方についての解説を望むご意見もいただいており，今回この場で生涯教育講座とさせていただくこととしました。がんの痛みのマネジメントの指標として「新版がん緩和ケアガイドブック」が日本医師会から発行されていますが[1]，世界的に有名なものとして，WHO のガイドライン[2]，ESMO（European Society for Medical Oncology）のガイドライン[3]，NCCN（National Comprehensive Cancer Network）のガイドライン[4]などが公開されています。

Toshihiko NAKATANI
島根大学医学部緩和ケア講座
連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
島根大学医学部緩和ケア講座

オピオイドおよび麻薬の用語定義

オピオイドとは，「神経などに存在するオピオイド受容体と結合して，モルヒネ様作用をきたす物質」であり，薬学・医学用語である。麻薬とは，「麻薬及び向精神薬取締法で麻薬指定されている物質」であり，法律用語であるため定義上は立場が異なる。患者・家族への説明として，オピオイドという専門用語は理解してもらうことが難しいこと，また医療用麻薬を使用しているときは，法律上「麻薬及び向精神薬取締法」に基づいた規制の対象となるため，正しく使用いただくためにも，麻薬であることの説明を行うことは重要である。麻薬という言葉に拒否反応を示す患者・家族はとても多いが，この拒否反応は当然であり，むしろ正直に気持ちを話してもらう方が良いと私は考えている。医師に遠慮して本当は使用が嫌であることを言わずに，処方された医療用麻薬を自己判断で使用しないリスクの方がより大きな問題となるためである。患者・家族が医療用麻薬を嫌がるのは，一般に広く認識されている，精神依存による悪影響，すなわち薬物乱用（drug abuse）や嗜癖（addiction）に陥ることを絶対に避けたいと